

ゆうあい



題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

共に生きる

2025. 1. 1 No.60

社会福祉法人 友愛十字会



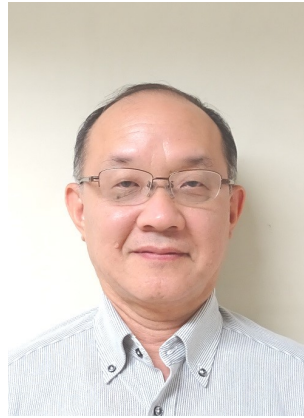
『2025年カレンダー』

主な記事

- 新年の挨拶 理事長 蒲原 基道
- 就任挨拶 常務理事 宮崎 浩
- 永年勤続表彰受賞者 友愛デイサービスセンター 萬田 浩史
- 港区立障害保健福祉センター 山本 恵理
- 友愛荘 早田 政治
- 事例研究・キャリアパス研修 育成委員会
- 子育てと仕事の両立 男女共同参画委員会
- 地域との連携 世田谷施設・友愛荘・港区立障害保健福祉センター
- 砧地域包括指定管理受託 砧地域包括支援センター
- デイサービスセンターの相互入替 砧デイサービス・友愛デイサービス
- 善意のかずかず

新たな年を迎えて

社会福祉法人友愛十字会
会長・理事長 蒲原 基道



新年あけましておめでとうござ
います。年の初めにあたり、法人
の今後について、考えてみたいと
思います。一昨年、中期計画を
策定し、その実行段階に入りまし
た。計画では世田谷地区を中心
に地域のニーズに沿う形で法人事業
を再編していくことにしており、
今年一年は非常に大事な年になり
ます。

まず第一に、医療的ケアを要す
る子どもたちへの支援の充実で
す。

当法人はもともと障害分野から
出発して、その後地域のニーズに
応じて、高齢分野の事業を追加し

てきましたが、近年、障害のある
子どもたちへの支援、とりわけ、
医療的ケアを要する子どもたちへ
の支援の要請が高まってきていま
す。国立成育医療研究センターと
いう医療機関が近くにあることな
ども踏まえて、新たに、これらの
子どもたちを対象とする児童発達
支援などに取り組みたいと考えて
います。幸い、当法人は、港区か
らの指定管理の事業として、障害
のある子どもたちへのいくつかの
事業を行っており、一定の経験や
ノウハウもあるので、これらを生
かしていくつもりです。また、現
在、当法人の友愛デイサービスセ
ンターにおける生活介護事業でも
医療的ケアを要する障害者への支
援を行っており、新規事業とこの
生活介護事業との連携により、子
どもの時期から大人になった後ま
で、継続的に支援することが可能
となります。

次に、法人事業と地域の皆さん
との交流にもこれまで以上に力を
入れてまいります。

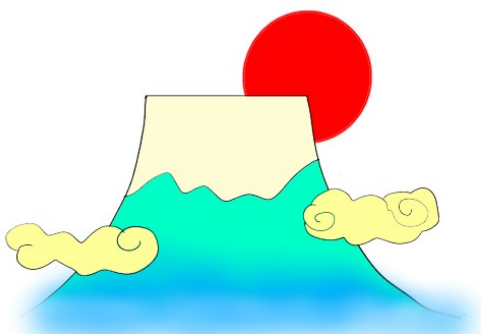
これまで同様、盆踊り大会やふ

れあい祭りといった形のイベント
を引き続き行うとともに、今後
は、定期的な地域の方々との交流
の機会をつくっていきます。例え
ば、現在、世田谷の障害者就労支
援事業者の協力を得ながら、これ
らの事業所の生産物を地域の方々
に販売する機会をつくって来た
「友愛マルシェ」を、今後は定期
的に開催することを予定していま
す。また、その際には、地域の高
齢者などが主体的にかかわる活動
を取り込んで、地域の高齢者の役
割発揮の場としていくことで、こ
こで活動する人にもここを訪れる
人にも、つながりが持てる機会と
なれば、と考えています。そもそ
も当法人は地域包括支援センター
（世田谷区での呼び名は「あんし
んすこやかセンター」）を受託し
ており、地域全体の高齢者の介護
予防や生活支援の仕組みづくりを
使命としているので、法人本体と
しても、地域活動の支援を積極的
にやっていきたいものです。

なお、これらの事業を実施して
いくにあたり、重要なのは、人材

の確保、育成、定着であり、その
基本は、職員のモチベーションの
向上です。今後の新たな取り組み
や現在の事業についての創意工夫
をできるだけ評価することで、こ
れにこたえていきたいと思いま
す。

以上、考えるといろいろ頭に浮
かんできます。これらを一一つ一
つ着実に進めていく所存でありま
すので、関係各位の引き続いての
支援をよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

常務理事 宮崎 浩

私は、昭和60年3月に当法人に採用され、障害福祉の3事業で延16年半、高齢福祉の5事業で延23年半お世話になり、お陰様で令和7年2月末に勤続40年を迎えます。令和6年度から「定年が65歳まで段階的に延長」されましたが、それ以前の定年60歳をすでに迎え、現在は「再雇用3年目」です。

この間、私は沢山の失敗を繰り返してきましたが、その度に本当に多くのご利用者やご家族の皆様からご助言や優しい励ましを頂きました。もちろん楽しくて嬉しかった想い出も到底数え切れません。すべては、この仕事を通じて知り合えた事業のご利用者、そのご家族、二代総裁、三代総裁、法人役員の皆様方、世田谷区を始め福祉行政の皆様、同業多種の業界の皆様、成城消防署と成城警察署、各種関係医療機関等の皆様、上司や諸先輩方、ともに働く法人の仲間、事業を支えて下さるボランティアの皆様、さらにいつも温かく見守って下さる当法人の後援会や地元の町会・自治会、保育園・幼稚園、小・中学校、神社・寺院、消防団、商店街等々、地域の様々な皆様にもずっとずっと支えられて、何とかこれまで勤めさせて頂くことができました。この紙面をお借りして、心より深く厚く感謝申し上げます。

法人本部を置く「世田谷施設」でのみの勤務でしたので、大人になってからの人生の大半はこの砦で過ごしており、いわず「井の中の蛙、大海を知らず」であります。が、「法人の歴史70余年」と「砦近隣の風景の移り変わり」はある程度理解しております。「通所・相談系」の事業に併任の時期はありましたが、入職以来切れ間なく「入所・入居系」の事業に従事しておりますので、平成13年以降は法人の携帯電話を365日24時間、肌身放さず身に着けております。また、元日には、新年のご挨拶や我流の獅子舞披露等を約30年間楽しく務めて参りました。中でも思いついて深いのは、総裁が実行委員長として指揮をとられる「合同運動会」で、二代総裁故・寛仁親王殿下が体育館のロビーで30歳の私を「君がこの軍曹だな」と称して頂きましたことです。このことは私の最大の誇りであり、平成28年に同じ合同運動会で、私の不手際につきまして現総裁であられる瑠子女王殿下からご注意を賜りましたことは、私の最大の汚点となりました。ですが、その後はいつも笑顔でこの老爺を温かく見守って下さり、つくづく感謝の念に堪えません。

入職前の学生当時は「地域福祉」のゼミを専攻し、「行政による福祉制度の充実だけではなく、今後は非営利団体や地域住民等によるインフォーマルな活動がとても重要になる」と学んだように記憶しています。今まさに「多様性を踏まえた共

生社会の実現」が目指されている中、地域での様々な社会資源等との連携がさらに重要となってきました。法人が作成した令和4～9年度までの6年間の中期計画では、世田谷施設にある既存の8事業の見直しと新規事業の検討等を推進することとしています。その計画の大きな方針として、地域の福祉ニーズである「必要性」、法人が培ってきた「専門性」、サービスの提供が持続可能な「確実性」、この3要件を満たす事業を目指します。

令和6年6月28日の常務理事拝命にあたり、蒲原理事長より「地域での協働連携の強化」と「法人の中期計画の推進」のご指示を受けました。これまでに以上に「法人を挙げて地域福祉向上に向けた新たなチャレンジ」に尽力致します。私の弱点は「勉強が苦手で知識も知恵もない脳味噌」ですが、「心と体は幸いとても丈夫」と自負しております。この重責を担うことに、私自身「大きな無理」がございしますが、いつも私を助けてくれる多くの優秀な後輩職員に次代を担ってもらうために、また60年に亘り当法人に生涯を捧げた故・石井参与ゆうあいNo.52参照へ良い報告をするために、「兎に角一生懸命、冷や汗とともにも大汗をかいて、努めて参る」所存です。

引き続き、皆様方のご指導とご鞭撻を、どうかより一層賜りますようお願いを申し上げます。



↑ 砦町町会主催の納涼夏祭り大会の進行役を仰せつかりました。 その準備に酒井常務以下世田谷施設長全員が三峰公園に駆け付けました。↑

創立記念日／

永年勤続者表彰式

友愛デイサービスセンター

萬田 浩史



私が社会福祉法人友愛十字会に入職したころは、まだ介護保険もなく措置費の時代であり、生活支援員も寮父・寮母と呼ばれていた時代でした。

友愛十字会に入職し30年6か月、最初に配属された施設が養護老人ホーム友愛ホームでした。入職したころは諸先輩方々の指導を受けながら夜間勤務を行うなどの毎日でした。

そんな折、友愛ホームでの約8年の勤務を終え、人事異動を拝命し友愛デイサービスセンターへの異動となりました。自身友愛ホームでの8年間の勤務で培った老人福祉とは全く異なる障害者福祉という新しい分野での勤務となり大きな不安もありました。

また、当時はISOの取得もされていなかった時代であり認可が下りたのは初代友愛デイサービスセンター長小島様の時代でした。

そして今年度は第四代木村センタ―長の下で世田谷施設内での引越しを完了し、10月より新天地にて営業を開始し、友愛デイサービスセンターの歴史に新たなページがひらかれ、旧施設とは比較にならないほどの環境が整い、ご利用者様に合わせた設備改修を施工し、ご利用者様も施設での生活を笑顔で楽しまれています。今後も法人理念である、共に生きる「感じる・創る・つながる」を念頭に微力ながら友愛デイサービスセンターの発展に尽くしていきたいと思っています。

港区立障害保健福祉センター

地域活動支援センター

施設長 山本 恵理



9月26日に開催された永年勤続者表彰式で、勤続30年を表彰していただきました。

新卒で入職した私が今日まで大過なく勤めさせていただけたのも、法人内外の皆様のおかげであると感謝しております。

この30年、社会福祉に関わる制度や社会のあり方は大きく変わりました。まず、平成12年の介護保

険法の施行です。私は介護保険制度の開始とともに、介護支援専門員として働き始めました。その後、平成18年の介護保険法改正で創設された地域包括支援センターに移りました。

障害福祉領域では、平成15年の支援費制度、平成18年の障害者自立支援法、平成25年の障害者総合支援法と大きな変遷がありました。私は入職直後の6年間と、令和3年から現在に至るまでを障害福祉領域で勤務しておりますが、福祉に求められるものは大きく変わっていると感じます。

昨今は体力的に頑張りがかかなくなってしまうましたが、今後とも時勢に応じた福祉支援に貢献できればと考えています。

特別養護老人ホーム友愛荘

副園長 早田 政治



この度は、勤続30年を表彰いただきありがとうございます。私は、平成6年

4月に特別養護老人ホーム友愛荘に入職しました。当時を振り返ると介護保険制度以前でしたので、ご利用者の生活も職場環境も今とは大きく違いました。先輩職員の

大半は女性でしたし、若い男性とただで何かと重宝がられたものです。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、友愛荘（当時は町田市図師町）は当日から停電の状態が続きました。ナースコールの電源は小型の三相発電機を「ぶるん」と回して凌ぎました。翌日、エンジン音を聞いた近所の農家の方が「これ使っているよ。」と軽トラクに積んだ発電機を下ろし置いて行ってくれたことは今でも忘れられません。ひとえに、諸先輩方の地域貢献があったからこそだと思います。

令和3年6月友愛荘は町田市南大谷に移転しました。南大谷・本町田地区でも住民の方々に愛される施設にすることが恩返しと信じ取り組んで参ります。



キャリアパス研修・

事例研究発表研修への参加

育成委員会委員

砧ホーム施設長 武井 安浩

本年度も法人による福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（チームリーダー編）、事例研究発表研修が開催され、砧ホーム職員がそれぞれ参加いたしました。

8月8日（木）9日（金）の2日間開催された福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（チームリーダー編）には、坪谷主任介護職員、三浦副主任介護職員、松崎副主任介護職員の3名が参加。世田谷施設以外の他事業所の役職者と共に有意義な2日間を過ごしました。

9月26日（木）開催の事例研究発表研修では、2題を発表いたしました。

写真でご紹介いたしますので当日の様子をご覧ください。

キャリアパス研修の中で行動指針マップを作成しました

グループワーク

発表

法人理念も学習します



『手順書を活用した100問テストによる職員教育が、効率的な手順書の見直しを実現した取り組みについて』目指せ100問マスター！』を発表

立岩職員、木村職員
見事に理事長賞獲得！！

三浦副主任、小谷野副主任
貫禄の優秀賞獲得！！

法人内他事業所の皆様も来年度発表してみませんか！



『機能訓練指導員主軸の会議が実現した、福祉機器導入による生産性向上成功事例の一考察』Road to「介護職員の働きやすい職場環境づくり」を発表



子育てと仕事の

両立について

男女共同参画委員会

当委員会では、女性も男性も働きやすい、子育てや介護などと両立できる職場環境を創ってという活動しています。

今回は、子育てとの両立をさせていただきます、お二人をご紹介します。

港区立児童発達支援センター

看護師 アグキャン彩香

私は友愛十字会に入職し、8年目を迎えました。以前働いていた場所とはまた違う分野で自身のキャリアや経験を積みたい、これまでの経験を生かせる場所で働きたいという思いで、児童発達支援センターで働き始めさせていただきました。新たな挑戦であり、不安な事も多かったのですが、周りの方々の優しさや子供たちの可愛い笑顔に支えられ今があります。

入職5年目の秋に息子の妊娠がわかり、上司に報告したときにはまるで家族のように喜んでくれたことをよく覚えています。妊娠初期は体調を崩すことも多く、職場や同僚に迷惑をかける

ことも多々ありました。常に支えてくれた同僚や理解ある職場環境であったこと、今でも本当に感謝しています。

2022年から1年間産休・育休を頂き、息子も今年2歳を迎えました。

まだまだ息子は体調を崩すことも多く、職場にはご迷惑をかけることも多いのですが、素晴らしい同僚と理解ある職場に恵まれ、何とか子育てと仕事の両立をこなすことが出来ています。難しさやもどかしさを感じることもあります。ですが、これからの私流の「両立」を楽しみながら精進していきたいと思っています。



特別養護老人ホーム友愛荘

介護職員 豊田 未来

『初めての出産・育児と仕事の両立とそれに関わる環境』

私は友愛荘の移転の計画途中に妊娠し、移転した翌月に産休となりました。仕事を続けられるか不安でしたが当時の介護主任が女性で出産・子育ての経験も経ていた事もあり早い段階で報告をし、笑顔で涙ぐみながら「えー！おめでどう!!」と一緒に喜んでくれたことを今でも覚えています。業務も制限させていただく中、周りの職員にはとても気を使って頂きその甲斐あって何の問題もなく妊娠期間に仕事をすることが出来ました。

私が勤めてから結婚と同時に退職する先輩方が多く、妊娠・出産を経て復帰することが出来るのか等の不安も主任へ相談すると「これからの友愛荘は出産・育児を経て子育てしながらでも仕事で活躍できる場所となっていかなければならない。」「子育ての現役としてこれからの友愛荘の為のモデルとなり子育てをする人たちの支えとなつて欲しい。」との言葉を頂き、周囲の職員に負担が掛かっていると思うと申し訳ない気持ちで一杯だった私に新た

な役割が与えられたように感じました。

2年間の産休育休を経て、変わらず温かい言葉を掛けてくれる上司や職員のおかげで不安も安心に変わり、急な休みをいただいたり勤務に制限を要していたりと様々な迷惑をかけているにも関わらず「大丈夫。」「お子さんが第一だよ。」と言葉を掛けて頂くことで常勤職員として復帰し働くことが出来とても有難く感謝で一杯です。

出産・育児と仕事の両立は職場と一緒に働く職員の支えと理解があつてのものだと強く感じ、出産育児に関わらずこの環境をこれからも守っていけるよう『お互いに気持ちよく働ける職場』を意識し、私に出来る事からこれからの友愛荘に還元できるように努めていきたいと思っています。



世田谷施設 地域連携委員会について 委員長 宮崎 浩

平成26年4月、世田谷施設に地域連携

委員会が発足しました。法人本部企画部長が委員長を、砧あんしんすこやかセンター長が副委員長を務め、委員は検討内容に応じて既存の相談員等会議での協議により随時活動に応じてWGを構成するとしました。委員会の目標は、①法人として地域に貢献する活動を地域と連携して構築する②法人内の各事業が有機的に連携し地域に貢献する活動を主体的に推進するの二点です。盆踊りやふれあい祭りでは、地域の方々と楽しく連携を築く格好の機会ですが、これを「地域での相互理解や相互支援の仕組みづくり」に発展させることが、社会福祉法人の役割であり「開催そのものが目的ではないこと」を共有してきました。この委員会は発足から間もなく11年が経過します。当初の目的に沿って目標をどれくらい達成したでしょうか。振り返ると次のような活動に取り組んできました。

まずは形からと友愛十字会の赤いハッピを作り、様々なイベントで法人の認知度を高めました。「納涼盆踊り大会」では、砧町会から櫓を借用し、昨年はスロープを設置して車椅子でも櫓での踊りを楽しめるようにしました。今年第60回を迎えるのを機に改めて「高齢者や小さいお子さん、障害のある方々が安心して集えるお祭り」と銘打つことにしました。従来の文化祭を平成11年から「友愛ふれあい祭り」に改称して今年は24回目と

ります。平成28年から地元の三峯神社の例大祭に日程を合わせて様々なコラボレーションを図ってきました。昨年は三峰公園で町会の「射的ブース」の運営を担い、地元の子供たちと楽しい時間を共有しました。

12月に開催していた「感謝の集い」は平成25年から7回開催しましたが、コロナにより中断しています。ただ、そこでの交流から、砧町会の会長であり、当法人の後援会長であられる長島日出男様からご推薦を頂き、私が砧町会の理事を仰せつかったのが平成27年度からです。その秋には自ら成城消防団にも入団しました。そして様々な場面で地域の方々と顔の見える関係が急速に実現しました。その縁で当法人も区立山野小の学校協議会の団体会員となり、山野小での避難所開設訓練や各種イベントにも積極的に参画し「山のとてぶん夏まつり」ではポッチャとカーリングをミックスした小学生も楽しめるゲームを手掛けています。

町会主催の「ポッチャ砧町カップ」にも当法人のご利用者が毎回活躍できる場を頂いています。町会との連携は年々多岐に亘り、こうした活動の記事は町会のHPに総務部の松原様がタイムリーに漏れなくUPして下さいます。豊富に写真が掲載され細やかでわかりやすく楽しい記事は、法人内の活動記録を遥かに凌ぐものです。

この間には世界中に蔓延したコロナ禍が3年以上含まれています。皆様との交流が大きく制限される中、令和2年の「ソーシャルディスタンス音頭」では、リモートでたくさんさんの地域の皆様のご協力を頂き、画期的な動画を配信することができました。



砧町会の皆様がスロープ付きの櫓と一緒に組み立ててくれました。



三峯神社の例大祭では射的のブースが大行列の人気でした。

令和3年には、社会福祉協議会が事務局を担う「せたがや公益協」の活動として、支援が必要な方への食の提供体制構築で「保管と配布の場の提供等」を始めました。

令和3年からの3年間は「砧にたくさんのひまわりを咲かせませんか」という企画で多くの方々に喜んで頂きました。「友愛青空マルシェ」も令和4年と5年に各一回開催し、令和6年度は年4回の定期開催、令和7年度は毎月開催を目指すこととしました。

砧まちづくりセンターとの連携では、山野集会所で4年振りに開催された「みんなの交流会」において、センター所長から「地域包括ケアシステム」の生みの親と蒲原理事長が紹介され、理事長の講演を地域の皆様と和気あいあいと共有する機会となりました。さらに、成育医療研究センター敷地内にある「重い病気を持つ子どもと家族を支える財団(キッズファム財団)」が事務局となり「きらきらキッズフェスタ実行委員会」の協力団体となりました。また、世田谷区の子育て支援の補助事業で初めて砧に開設された「おでかけひろば『うさぎの縁がわ』」のオープンにも地元の和響太鼓さんとともに獅子舞でお祝いをしました。最近では認知症当事者や家族・支援者が釋りレーを行う「ラン伴ども」のゴールイベントも行いました。

地域に踏み出すと、地域には本場に多くの方が地域福祉の向上に尽力されていることに、今さらですがたくさん気づかれます。地域連携委員会は着実に前進しましたが、まだまだ発展途上でゴールの無い活動だと思っています。今後はさらに世田谷施設の各事業のご利用者がこの地域で「共に生きる」主役となるように取り組む必要があると、改めて強く感じています。



友愛荘開設五十周年 記念祭開催のご報告

友愛荘 園長 鈴木健太

令和6年11月9日（土）、友愛荘では開設50周年を迎えることを記念して、施設の中庭と地域交流スペースを開放して記念祭を開催いたしました。

開会式の後、最初のプログラムである近隣の本町田わかくさ保育園による出し物では、集まった大勢のご家族が見守る中、園児たちによる太鼓の演奏と歌の披露があり、青空の下、賑やかにイベントがスタートしました。

園児たちの出し物が終わると、テント下の出店では、焼きそばやフランクフルトの販売、綿あめやポップコーンのプレゼントが始まり、法人本部から応援に駆け付けた職員が休む間もなく調理と接客に汗を流してくださいました。

地域交流スペースでも各拠点に属する法人の栄養士が一堂に会し、「栄養士のカラフル野菜cafe」と題して、野菜スープや薬膳粥の販売の他、介護食品の試食コーナーを展開し、会場を盛り上げてくださいました。

また、同スペースでは、尺八や二胡の演奏、フラの披露や吹奏楽の合奏など、地域で活動する団体のご協力によるアトラクションが続き、ご入居者の方々も時間を忘れて魅了されていました。



玄関前では、おしゃれなキッチンカーがクレープやジェラートを販売し、来園者の行き帰りを華やかに迎えてくださいました。お子様連れや若い職員はもちろん、

ん、ご入居者にも人気でした。

来園者数は、関係者を除き250名に上り、盛況の内に閉会いたしました。開催を通じて、介護福祉施設は、介護は勿論のこと、福祉施設であるからには地域における暮らしの拠点としての役割を果たすことの重要性を、私自身、身に染みて実感することができました。これからも職員と共に、地域（市民）を愛し、地域（市民）に愛される開かれた施設づくりをして参りたいと存じます。



「地域との連携」

◎ヒューマンぷらざまつり

◎芝大神宮例大祭大神輿
(芝金杉町会)

◎子ども食堂フードパントリー等応援企画
(港区社会福祉法人連絡会)

港区立障害保健福祉センター
地域活動支援センター

施設長 山本 恵理

《ヒューマンぷらざまつり》

毎年10月の最終日曜日に開催されているヒューマンぷらざまつりですが、令和6年度はこの日に衆議院議員総選挙が実施されることになり、当センターは投票所に指定されていることから、やむなく11月24日(日)に延期しました。

準備や予定をしてくださっていた方々にはたいへんご迷惑をおかけしましたが、このお祭りをただ皆様が大切に思い、楽しみにしてくださっているのかを改めて知ることができました。「利用者の声」には「お祭り 何があっても開催してください。楽しみにしていますよ」という意見が届きました。

当日は快晴で、千人を超える来場者に恵まれ、例年通り楽しくあたたかいお祭りが実施できました。これも参加団体の皆様をはじめ、ボランティアさんなど多くの方々のご協力があったからこそ感謝しております。

《芝大神宮例大祭大神輿

(芝金杉町会)》

芝大神宮例大祭は、港区芝・大門・浜松町の十五町会の神輿が出揃う勇壮な秋祭りです。

令和6年9月15日(日)、当センター職員4名が、芝金杉町会の大神輿を担いできました。揃いの祭礼半纏を着用して町内を巡行し、クライマックスでは力を合わせて神輿を宙に投げるといふパフォーマンスを披露しました。

9月とはいえ、立っているだけでも暑い日でしたが、町会の皆様と一体感を味わうことができ、頑張った甲斐がありました。



《子ども食堂・フードパントリー等応援企画(港区社会福祉法人連絡会)》

港区社会福祉法人連絡会は、区内に本部や事業所がある社会福祉法人が連携し、地域における福祉の充実に向けた取組や情報共有等を行うためのネットワークです。

子ども食堂やフードパントリー等を実施している港区内の団体を応援しようと、自宅に眠っている食品を集めて寄付しました。当センターにも多くの食品が集まりました。



砒包括指定管理受託

プロポーザルを終えて
砒地域包括支援センター

施設長 山本 健一



あんしんすこやかセンター
イメージキャラクター
「あんすこ君」

この度、世田谷区からの地域包括支援センター事業委託について、「世田谷区地域包括支援センター運営事業者選定に係るプロポーザルの選定結果について（通知）」が届き、令和7年度以降も引き続き当法人が砒地区で事業運営を担うことになりました。

令和に入り当センターでは、短期間に3人の管理者交替があるなど、不利な条件もありました。そのため今回のプロポーザルでは、法人や前任が平成18年より運営を受託してきた一貫して地域福祉の向上に貢献してきた取り組みについて、さらに展開していくことをアピールしました。

近年、困難・生きづらさなどの地域課題は複雑化・多様化し、幅広い分野との連携や協働の重層的な支援体制が求められています。そのため、これまでの方法や今あるシステムだけでは解決できない問題が、今

まで以上に増えてくるものと思われます。

当センターは、平成26年には地域包括ケアの地区展開のモデル地区となり、砒まちづくりセンター、社会福祉協議会砒事務所との三者連携に積極的に取り組んだことが、現在山野児童館を加えた四者連携の強力な礎となっています。これまで構築してきたネットワークを活かし、また職員一同協力して経験を積むことで、引き続き砒地区の福祉の向上に貢献したいと考えます。



砒まちづくりセンター外観 横断幕やのぼりで「福祉の相談窓口」をアピールしています。

「まなびや砒」

砒デイサービスセンター

施設長 小泉 貴宏

平成4年4月より32年半にわたって世田谷施設の本館1階で営業してきた砒デイサービスセンターは、10月より友愛園1階に場所を移し、新たに地域密着型通所介護「まなびや砒」（通称）として生まれ変わりました。

定員18名と以前より少々こじんまりとした当センターですが、曜日・時間に応じて様々なメニューの趣味活動を提供し、また、リハビリ機器を使用した機能訓練を実施する「趣味活動・機能訓練特化型」のデイサービスとなっております。

ご利用者の主体性と積極性を大切に、「したいができる」場所として、皆さんにいきいきと日々の生活を送つ



ていただくためのお手伝いをして参ります。

また、いずれは地域の皆様が自由に立ち寄り、交流ができる場になりたいと思っています。

見学・体験は随時受付中です。また、ボランティアも大募集中です。ぜひ皆様、お気軽にまなびや砒にお立ち寄りください。

友愛デイサービスが

新しくなりました

友愛デイサービスセンター

センター長 木村 浩二

日頃より、友愛デイサービスセンターの事業運営にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、当センターは、同一敷地内の別棟に事業スペースを移転し、以前に比べ各段に広く充実した設備の中で、心機一転、事業を開始いたしました。

今までは、利用者の皆様には申し訳ないほど手狭な空間で事業を運営しておりました。その状況は車いすご利用者の移動さえもままならないほどでしたが、全職員が常に安全配慮を徹底し、利用者の皆様が安心して適切なサービスを享受できるよう、日々奮闘していた姿が目に見えます。とは言え利用者の皆様は、重度の身体障害

を持った方々や医療的ケアを必要とする方々であり、少しでもゆとりある環境の中で、安全に質の高いサービスを提供することは、職員全員の願いでした。そんな願いが叶ったことで、私たちも今まで以上にご利用者の支援に力が入っています。

設備の一部を紹介すると、利用者の皆様が通所中の大半を過ごす訓練室は、以前の2倍以上の広さとなり、車いすのご利用者も職員もスムーズに移動できるようになりました。広さだけではなく、暖かい陽光を感じられる明るい雰囲気にも包まれ、大変心地よい空間となっております。その他にも、ご利用者が静養したり安楽な呼吸を促すなどの伏臥位療法を実施する高床を拡張し、洗練されたデザインで使いやすい洗面台を設置し、さらに車いすのご利用者用のトイレを増設したことにより、ご利用者支援が効率性を確保しながら、一層安心そして安全に提供

できるようになりました。その快適性は、利用者の皆様が一番感じてくださっていると思います。今後は、この新たな環境のすべての利点をご利用者支援に生かすとともに、医療的ケアの必要な方も含めた新規のご利用希望にもできる限りお応えし、地域の皆様から期待される役割を果たしてまいります。引き続きのご支援、ご協力によるしくお願い申し上げます。

ぜひ一度、新しく生まれ変わった友愛デイサービスセンターを見にいらっしやいませんか。心よりお待ちしております。

最後になりましたが、今回の移転は高齢者通所介護事業所である砦デイサービスセンターと事業スペースを入れ替えるという形で実現しました。この計画に理解をいただいた砦デイサービスセンターの小泉センター長をはじめ職員各位に感謝いたします。



従前の2倍以上に広がった訓練室
(右下白群色の部分は、ご利用者が静養する高床)



口腔ケアの状況もしっかり確認できる大きな鏡を設置し、使い勝手のよい洗面台

善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しましてご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたこと
 に対して、心より御礼申し上げます。
 (令和6年7月1日〜令和6年11月30日)

奉仕活動

○世田谷更生館

秋山 一代

伊藤 幸子

木村 和江

渡邊 砂代里

○友愛園

慶応義塾大学

○友愛デイサービス

山川 敏江

○友愛ホーム

砧幼稚園

○砧デイサービスセンター

鎌田 セツ

川口 栄子

古賀 明子

後藤 陽子

菅田 悦子

寿乃田 雅子

田村 正子

森崎 千鶴

砧あんしんすこやかセンター

小山 秀樹

菅田 悦子

西多 法子

山田 哲夫

友愛荘

菅野 晴美

船山 直子

尺八わっしょい

ニコニコ会

フラダンス教室マカプア

AKASHI WIND ENSEMBLE

○本部

相原 トミ子

秋山 由美子

足立 義詮

石井 洋一

大島 弘之

木村 忠敬

長島 日出男

濱口 武

矢野 瑞静

松永 桂子

新井電気工業所

大蔵東部町会

南カインドサービス

関東ボウリング場協会

砧地区民生児童委員

砧町会

コルカタ

成城消防団第五分団分団長

世田谷砧郵便局

世田谷区砧総合支所

世田谷区障害福祉部障害者地域生活課

世田谷区赤十字奉仕団砧分団

世田谷区立砧工房

世田谷区立山野小学校校長

世田谷区立山野小学校PTA

祖師谷商店街振興組合

ネオハルト(株)

法人格砧町自治会

悠遊踊ろう会(熊野 伸子)

○本部

藤原 禎一

南カインドサービス

さわやか信用金庫

リコーブラックラムズ東京

砧ホーム

水津 貞和

長谷川 久美子

友愛荘

伊イコー建築計画事務所

永楽堂アール薬局

(社) 賛育会 清風園・第二清風園

世田谷区計画コンサルタンツ

港区立障害福祉センター

ホンダ販売労働組合

寄付金

寄付物品



(敬称略)

表紙写真: 港区立障害福祉センター

障害者地域自立生活支援事業

「絵手紙教室」

令和6年度前期 参加者の皆さん

「2025年 カレンダー制作」

編集後記

2025年の干支は正確には、「乙巳(きのと・み)」というそうです。干支の「巳(へび)」は、豊穡や金運を司る神様として祀られており、古くから神の使いとして信仰の対象とされてきました。また、脱皮することから「復活」や「再生」を意味し、不老長寿など縁起のいい動物として考えられています。

東京の品川区に「白蛇日本三大聖地」と言われる「蛇窪神社」があります。皆様も参拝に行かれてみてはいかがでしょうか？

《第六十一号は、令和七年七月三十一日発行予定です》

ゆうあい編集委員会 副委員長

友愛園 施設長 小関 英利

ゆうあい 第六十号

令和七年 一月 一日

発行 社会福祉法人 友愛十字会

発行人 酒井 健治

所在地 東京都世田谷区

砧三丁目九番十一号

電話(03)341-6131 三六四

http://www.yuai.or.jp